

平成 28 年度第 1 回 富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議  
(概要)

日 時 平成 28 年 5 月 30 日 (月) 10:00～11:30

場 所 富山県民会館 8 階 バンケットホール

説明事項

- (1) 平成 28 年度 富山県中小企業振興施策等について
- (2) 富山県ものづくり産業未来戦略雇用創造プロジェクトの概要・スケジュール (案) について
- (3) 国の中小企業振興施策等について (中部経産局、富山労働局、富山財務事務所)

委員からの主な意見

- ・中堅・中小企業に向けたグローバル企業人材育成支援の継続・拡大はもとより、PR の強化に努めることが望ましい。
- ・「子宝モデル企業普及促進事業」について、1 年で終わらせず 2～3 年は修正しながら実行し、優良事例が中小企業の子宝モデルとなり、出生率の向上や育児状況の改善等につながると良い。
- ・「子宝モデル企業普及促進事業」について、長期的な視野で続けることが大切。結果の公表や表彰にとどまらず、中身の分析も行って県全体の出生率向上に貢献する施策につなげて欲しい。
- ・富山県は東京都などの大都市圏に働き手を吸い取られていることが懸念される。その対策としては幼少期からの富山の魅力を伝える教育を徹底してほしい。
- ・家庭を持つ若い世代の人に U ターンを促す取り組みとして、ふるさと納税を活用した税制の優遇、奨学資金の拡充をしてほしい。また、テレビや新聞などのメディアを巻き込み、富山での子育ての魅力を発信すると効果的。
- ・高校生に対しては、県教育委員会で作成した「ふるさと富山」で郷土の歴史・文化についての指導を行っており、郷土愛の醸成という点において、一定の効果が認められる。
- ・少子化について、高校生に問いかけると将来子供を持ちたいという思いはそれなりに抱いているものの、実際社会人になっていく中でそれが実際の数字

に反映されない面があり、課題である。

- 販路開拓について、東京ビッグサイトで開催の「機械要素技術展」に県内企業も参加。今回は富山県のものづくり全体を売り込むというテーマを掲げ、参加企業が集まって事前打ち合わせを行い、中身のある展示会にできる用意ができた。今後も、このような形で継続していきたい。
- ものづくり産業における高卒者の確保が課題。富山県の技術力を、パンフレットや学生向けの公開講座等でPRする仕組み作りをお願いしたい。
- 全国的に有効求人倍率が高い状態が続くのであれば、地方自治体や企業単位で若手の人材の取り合いをしても限界がある。国が雇用の将来ビジョンを作ってほしい。
- 大学の現場では、卒業生の就職率は好調だが、実務系学科の学生の確保に苦勞しており、COC+事業（大学が地方公共団体や企業などと協働し、地方における魅力ある就職先の創出・開拓及びその地域が求める人材育成のための教育カリキュラム改革の取組み）やインターンシップ、東南アジア等の学生の受け入れを通じて県内の人材確保にも貢献できるのでその点でも支援してほしい。
- 人材確保という面では、女性のものづくり技術者の育成事業の継続、支援が非常に重要。
- 女性の活躍や、ものづくり女子ということについて、若者に対しては発信の仕方が最も重要。マスコミなどの活用がより効果的なので拡充してほしい。
- 若者定着支援基金を、在校生の支援等に充てて欲しい。
- 県の伝統産業は近年徐々に回復しつつある。これからもものづくりに対する支援を継続し、若く優秀な人材の育成につなげて欲しい。
- 企業支援策、誘致策において県と市町村の連携強化を希望する。
- 富山県は中小企業支援施策が充実しているものの認知度が低い。
- 富山県の観光事業は好調なもの、外国人観光客がもたらす経済効果は国内の他の地域に比べるとまだまだ低い。逆に言うと大きな伸びしろがあるということなので、今後の施策の充実に期待したい。

- 金融機関が主催の創業支援セミナーが好評。また、販路拡大に関しても金融機関が持つネットワークを生かした取り組みで首都圏への販路開拓支援が実現しており、こちらも好評。
- 北陸の保証承諾率は全国的に見ると低いのが実情だが、県の制度融資の利用状況は平年並みで100%近い水準となっている。